2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>1、教育(教室不足)環境の改善 2、衛生(トイレ不足)環境の改善 3、地域の待機児童生徒の救済 4、児童達の教育環境(3年生から6年生の2部制)の改善 5、建物維持管理のための地域コミュニティの組織化</p> <p>上位目標がすべて達成された。</p>
(2) 事業内容	<p>小学校の増築計画は、8月24日から基礎工事作業に着手し、現地の建設会社の従業員に加えて、愛知県名古屋市内の南山大学、愛知淑徳大学、椋山女学園大学などから56名の英文科の大学生と随行員のボランティアの応援で工事を進め、休日や夜間に学校内の空き地で事業地の住民との交流しながらワークショップを開催した。9月中旬以降からは現地の建設会社が建設作業を進めた。作業工程は鉄筋を組み、型枠作業をした後にコンクリートを流し込む作業を繰り返し、10月中旬には屋根工事が進み、教室内や通路は壁のブロックにセメントを塗る作業や屋根工事を進め平行して水道工事、電気の配線工事を進めて1月20日までには教室内に机・椅子を納入して完了する。</p>
(3) 達成された成果	<p>(ア) 教室を4教室増築することにより、3年生から6年生までは2部制から1部制にすることができた。また、授業時間が4時間から6時間に増え、学力の向上が期待される。さらに待機児童約30名を受け入れることが可能となったために、これらの児童が学校で勉強できるようになった。</p> <p>(イ) 現在、1教室あたりの児童数の目処としている50名を大幅に上回る70名を超えるクラスもあるが、教室の増設により1教室あたり多くとも50数名に留まり、すし詰め状態が緩和され、現状より窮屈な思いをせずに勉学に励むことができる。</p> <p>(ウ) 既存のトイレは、教室に1ヶ所しかなく、しかも男女兼用で、常にポリバケツに水を入れてトイレの使用後は、柄杓で水をすくい、トイレ内に流す構造になっているが、新トイレは給水設備を有しており、新校舎の児童は衛生的なトイレを使用できる。また、新トイレは男女が別々のトイレなので、不都合な女子児童の状況が解消された。</p>
(4) 持続発展性	<p>今後は、ワークショップの参加者であるバランガイキャプテンを中心に学校長、地域住民が月に1度の会合を持ち、校舎の見廻りを行いながら不都合がないかをチェックをして資金が必要とあれば、行政にお願いし、行政が出さない場合には自分たちで資金を集めて小学校の維持・管理の継続をしていく。また、現地提携団体(NGO)に、年に6回、小学校に訪問して状況を把握しながら必要なケアをすると共に愛知レスキューも年2回訪問し必要なサポートをして学校の維持・管理を行う。</p>